

当館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設された。

穂別町立博物館は昭和 50(1975) 年の長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本の発見が契機となり建設された。当初は「穂別町郷土資料館」として計画され、建設計画中に「穂別町立博物館」として名称変更された。名称変更後の館活動は「本町で発見される化石（自然史）」の研究・保存・普及と「町の歴史（人文）」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館としてのものであった。

その後、約 10 年にわたる博物館活動の結果蓄積された自然史資料の重要性と、人文系資料の保存活動に要する作業量にアンバランスを生じ、活動方針の変更が行われた。その基本活動方針は、「穂別地域で産出する古生物（化石）を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。ここではその経緯を記録し、今後の活動の充実と強化につとめていきたい。

### I 「建設の目的」と「展示更新」、「名称変更」

#### 〈穂別町郷土資料館建設の目的〉

『本町は、クビナガリュウをはじめデスモスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開町 70 年（町制施行 20 年）を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

＜昭和 55(1980) 年 11 月 26 日＞

#### 〈展示更新の基本的考え方〉

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたときの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の 1 頁 1 頁であることを理解させる博物館とする。』

＜平成 2(1990) 年 6 月 27 日＞

#### 〈市町村合併による名称変更〉

平成 18(2006) 年 3 月 27 日に穂別町と鶴川町の合併によって「むかわ町」が誕生し、町立博物館である当館の名称は、新町の名称に合わせて変更する必要性が生じた。しかしながら、これまでの実績との継続性、また、登録資料番号（HM-：HOBETSU MUSEUM の略）の維持のため、新名称には「穂別」の文字を残すこととし、新たな名称を「むかわ町立穂別博物館」（英語表記：HOBETSU MUSEUM）とした。

## II 沿革

- \* 本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」・「ホベツアラキリュウ」の使い分けは、以下の通り。
  - ・長頸竜：動物分類上の suborder PLESIOSAURIA の和訳として用いている。「蛇頸竜亜目」または「長頸竜亜目」が正式名称。
  - ・首長竜：「発掘調査団」の固有名義として使用。
  - ・クビナガリュウ：長頸竜の通称として使用。
  - ・ホベツアラキリュウ：「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された長頸竜標本の名称。
- \* 名称等は、当時のまま表記してある。

### 昭和 50(1975) 年

- 6月：荒木新太郎氏（穂別町在住）が穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部を採集した。

### 昭和 51(1976) 年

- 9月：佐藤昌人指導員（苫小牧青少年センター）・佐藤隆久教諭（穂別町立仁和小学校）が荒木氏発見の脊椎動物化石を長谷川善和主任研究員（国立科学博物館）に鑑定を依頼した。

### 昭和 52(1977) 年

- 2月：長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道された。荒木氏発見の脊椎動物化石が白亜紀海棲爬虫類の鱗の一部と確認された。
- 7月 5-8日：「穂別町首長竜化石発掘調査団」結成、発掘調査。この長頸竜標本を後に「ホベツアラキリュウ」と命名。

### 昭和 53(1978) 年

- 5月：「ホベツアラキリュウ」標本のクリーニング（剖出）作業開始
- 11月：穂別町立郷土資料館 開館（旧・穂別町立さくら保育所施設利用）

### 昭和 54(1979) 年

- 5月：長頸竜化石骨が穂別町指定文化財第2号に指定される。

### 昭和 55(1980) 年

- 10月 16日：「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」発足

### 昭和 56(1981) 年

- 3月 13日：施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博物館に変更

### 昭和 56(1981) 年

- 7月-12月：博物館建設工事
- 9月 1日：鈴木茂学芸員就任（-昭和60年3月31日）

### 昭和 57(1982) 年

- 1月 16日：長頸竜復元作業開始
- 3月-6月：博物館展示工事
- 7月 20日：博物館開館。一般公開開始（初代館長：今幸太郎教育長兼任）
- 8月 26日：「博物館協議会」発足
- 11月 1日：北海道博物館協会加入
- 12月 19日：長頸竜（ホベツアラキリュウ）復元骨格展示公開
- 12月 19日-1月 23日：特別展（第1回）「よみがえるクビナガリュウ」

### 昭和 58(1983) 年

- 3月 2日：博物館法による登録博物館となる（北博登第28号）

### 昭和 58(1983) 年

- 3月 28日：「博物館協力会」設立
- 4月 1日：日本博物館協会加入
- 4月 28日：菅原康次（第二代）館長就任
- 7月 22日-8月 7日：収蔵資料展（第1回）「地図展」
- 8月 1日：全国科学博物館協議会加入
- 11月 1日-3日：収蔵資料展（第2回）「こけし展」

### 昭和 59(1984) 年

- 2月：村上隆著「よみがえるクビナガリュウ」発刊
- 3月 27日：「穂別町立博物館研究報告」刊行開始
- 6月 14日：第二展示室（町立博物館保存庫）完成
- 11月 1日-4日：収蔵資料展（第3回）「古い写真・古い文書展」
- 12月 1日：桜庭勝美（第三代）館長就任

### 昭和 60(1985) 年

- 3月 30日：「穂別町立博物館館報」刊行開始
- 5月 1日：地徳力学芸員就任（-平成11年3月31日）
- 11月 1日-10日：特別展（第2回）「北海道一億年」

### 昭和 61(1986) 年

- 10月 21日-11月 9日：特別展（第3回）「穂別の自然」

### 昭和 62(1987) 年

- 1月 1日：今幸太郎（第四代）館長就任（教育長兼任）
- 7月 28日-8月 9日：特別展（第4回）「アンモナイトの系図」

### 昭和 63(1988) 年

- 7月 17日：第三展示室（保存庫）完成
- 8月 23日-9月 4日：特別展（第5回）「穂別のカメ化石」
- 10月 6日：今幸太郎（第五代）館長就任（専任）

### 平成元(1989) 年

- 6月 30日：仲谷英夫氏（香川大学助教授）：長頸竜ホベツアラキリュウ標本の記載論文公表
- 7月 18日-8月 20日：特別展（第6回）「穂別のむかし=写真で見る穂別の歴史=」
- 9月 29日-10月 6日：地徳学芸員をカナダ・アルバータ州ティレル古生物学博物館に派遣した。

### 平成 2(1990) 年

- 7月 23日：ドラムヘラー市長夫妻（カナダ、アルバータ州）来館
- 8月 18日-9月 16日：特別展（第7回）「戦争と穂別」
- 9月 3日-5日：レイド、M.G. 氏（アルバータ州ティレル古生物学博物館）来館
- 12月 31日：野田藤雄（第六代）館長就任（教育長兼任）

### 平成 3(1991) 年

- 4月 1日：佐藤稔（第七代）館長就任
- 4月 28日、29日：入館者10万人突破記念事業

### 平成 4(1992) 年

- 2月 1日：展示更新工事開始
- 4月 23日-25日：カリー、P. J. 氏（アルバータ州ティレル古生物学博物館）来館
- 4月 29日：展示更新完了、一般公開再開

### 平成 6(1994) 年

- 4月 1日：野田藤雄（第八代）館長就任（教育長兼任）
- 4月 1日：川上源太郎学芸員就任（-平成10年3月31日）

### 平成 7(1995) 年

- 7月15日-9月12日:川上学芸員をカナダ・アルバータ州ティレル古生物学博物館に派遣、研修。
- 8月12日:かせき学習館完成
- 平成8(1996)年
- 7月27日-28日:96北海道化石サミット開催(穂別町民センター)
- 10月6日:大江美津夫(第九代)館長就任
- 平成9(1997)年
- 7月6日、7月10日-8月31日:クビナガリュウ発掘20周年記念事業パネル展(第8回特別展)
- 平成10(1998)年
- 4月1日:櫻井和彦学芸員就任(-現在)
- 6月11日:星功(第十代)館長就任
- 8月11日-8月31日:特別展(第9回)「地球物語り(地質学普及書の近代史)」
- 平成11(1999)年
- 1月1日:山田正(第十一代)館長就任
- 5月29日:入館者30万人突破記念事業
- 8月1日-8月31日:特別展(第10回)「滄龍の泳いだ海-7000万年前の穂別-」
- 10月5日-11月28日:特別展(第11回)「穂別の自然」
- 平成12(2000)年
- 8月1日-8月31日、9月14日-10月1日:特別展(第12回)「穂別の石-川原の石から見た穂別」
- 9月14日-10月1日:日胆地区博物館等連絡協議会主催移動展「日高・胆振の博物館紹介」
- 平成13(2001)年
- 8月1日-8月25日:特別展(第13回)「穂別町立博物館の20年-クビナガリュウとともに-」
- 平成14(2002)年
- 4月28日-5月17日:特別展(第14回)「ツノのある奇妙なカメ-海の穂別からリクガメ化石の発見-」
- 7月1日-21日:特別展(第15回)「穂別町立博物館の20年-クビナガリュウとともに-」(再公開)
- 7月20日:開館20周年記念講演・討論会「化石の里(まち)の博物館」
- 7月27日-8月9日:博物館協力会企画展「穂別の化石」
- 8月31日-9月27日:特別展(第16回)「穂別のカメ化石-恐竜時代のウミガメとリクガメ」
- 平成15(2003)年
- 1月1日:清川博之(第十二代)館長就任
- 7月20日-8月31日:特別展(第17回)「穂別を泳いだモササウルス」
- 11月1日-1月31日:特別展(第18回)「虫とくらし」(協力:北海道開拓記念館)
- 平成16(2004)年
- 7月17日-8月31日:特別展(第19回)「クジラとデスマスチルス-穂別を泳いだ哺乳類-」
- 10月30日-12月12日:特別展(第20回)「火山と地震-佐々保雄北海道大学名誉教授一括資料展」
- 平成17(2005)年
- 7月16日-8月31日:特別展(第21回)「ホベツアラキリュウ発見30年」
- 10月29日-12月18日:特別展(第22回)「絵はがきは語る-旅の思い出・昔のまちなみ-」(協力:北海道開拓記念館)
- 平成18(2006)年
- 3月27日:「むかわ町」誕生(穂別町・鶴川町の合併による)、当館の名称を「むかわ町立穂別博物館」と改称
- 3月27日:本多廣行(第十三代)館長就任
- 7月15日-9月3日:特別展(第23回)「貝が語るむかわの一億年」
- 10月28日-12月17日:特別展(第24回)「むかわの自然-山と干潟の生き物たち-」
- 平成19(2007)年
- 4月1日:柏恵一(第十四代)館長就任
- 7月21日-9月2日:特別展(第25回)「むかわの一億年-化石や石が語る五つの海」
- 11月3日-12月2日:特別展(第26回)「鉱業のまち、ほべつ-穂別の炭鉱と鉱山の歴史-」
- 平成20(2008)年
- 7月19日-8月31日:特別展(第27回)「海へ帰った動物たち-穂別のセキツイ動物の秘密-」
- 11月1日-12月7日:特別展(第28回)「穂別D遺跡-一万年前の人々のくらし-」
- 平成21(2009)年
- 7月18日-9月30日:特別展(第29回)「穂別海竜博物館-穂別を泳いでいた海竜たち-」
- 平成22(2010)年
- 2月6日-5月30日:特別展(第30回)「北海道アンモナイト図鑑」
- 7月17日-10月31日:特別展(第31回)「白亜紀ウミガメ化石展」
- 平成23(2011)年
- 3月19日-5月29日:特別展(第32回)「白亜紀巨大二枚貝 イノセラムス・ホベツエンシス展」

## 施設の概要

### 【位 置】

北海道勇払郡むかわ町穂別 80 番地 6

平成 21 年度：展示映像機器整備

「太古の海－クビナガリュウからのメッセージ」

事業費：4,116,000 円（消費税込）

### 【町立博物館】

#### 〔構造規模〕

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：1,100m<sup>2</sup>

常設展示室	372.88m <sup>2</sup>
特別展示室	99.08m <sup>2</sup>
収蔵庫	86.56m <sup>2</sup>
事務室	40.50m <sup>2</sup>
研究室	31.50m <sup>2</sup>
整理室	29.92m <sup>2</sup>
学習展示室	184.75m <sup>2</sup>
書庫	35.05m <sup>2</sup>
共用部門	219.76m <sup>2</sup>

#### 〔工 期〕

昭和 56 年度～ 57 年度

#### 〔総事業費〕

362,165,000 円

#### 〔展示更新〕

平成 3 年度～平成 4 年度：博物館展示替え工事

事業費：99,910,000 円（消費税込）

平成 5 年度：マルチスライドイメージソフト制作

事業費：6,890,700 円（消費税込）

### 【かせき学習館】

#### 〔構造規模〕

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：325.89m<sup>2</sup>

事務室	56.70m <sup>2</sup>
作業室	56.70m <sup>2</sup>
書庫	14.04m <sup>2</sup>
レプリカ室	12.15m <sup>2</sup>
処 理 室	12.15m <sup>2</sup>
展示物保管庫	162.00m <sup>2</sup>
共用部門	12.15m <sup>2</sup>

#### 〔工 期〕

平成 7 年度

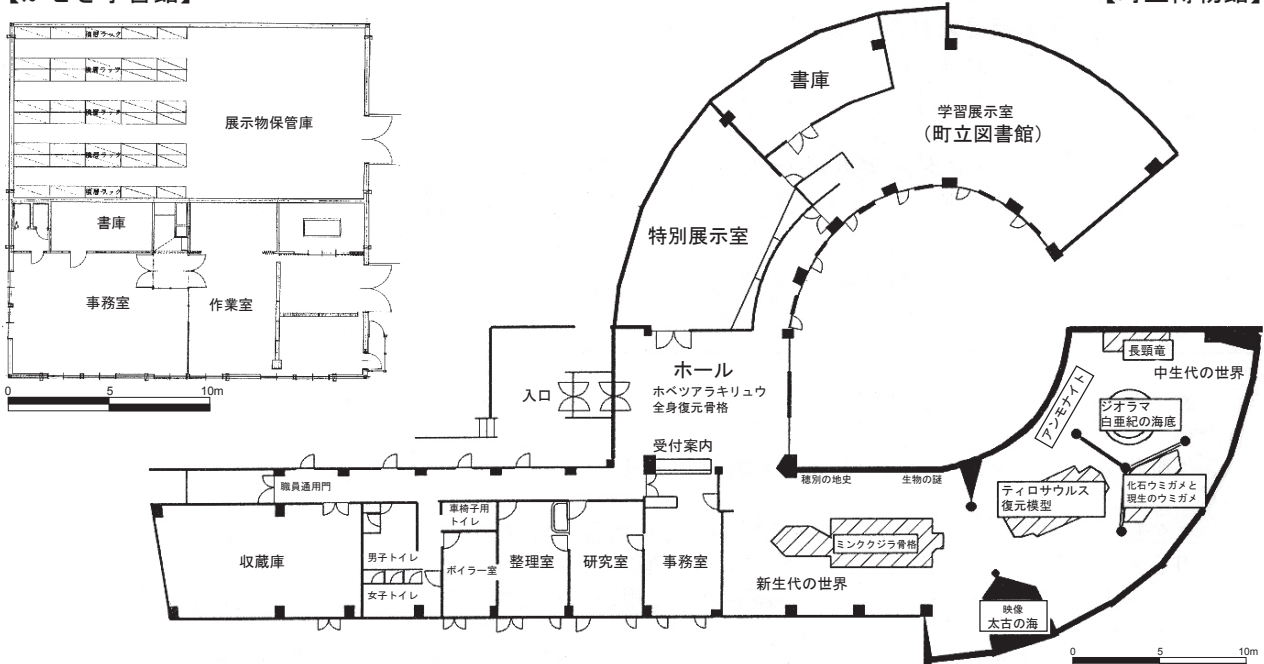
#### 〔総事業費〕

57,092,900 円（消費税込み）

## 施設平面図

### 【かせき学習館】

### 【町立博物館】



## 展示活動

### I 常設展示

主にむかわ町穂別地区から産出した動物化石を中心に、地質・化石資料やその復元模型を展示している。

#### 【常設展示の変更】

標本ラベル等の修正を実施した。展示資料の追加や変更は特に行っていない。

#### 【常設展示資料】

種別	分類		点数	計
化石	脊椎動物	魚類	13	297
		爬虫類（長頸竜 14 <sup>*</sup> 、モササウルス 8 <sup>*</sup> 、カメ 6 <sup>*</sup> 、他 2）	30	
		哺乳類（クジラ 8、デスモスチルス 2 <sup>*</sup> 、他 10）	20	
	その他動物	軟体動物（頭足類 102、腹足類 31、斧足類 54、他 3）	190	
		その他（甲殻類 10、その他 9）	19	
	植物		23	
生痕		2		
現生生物	脊椎動物	爬虫類（カメ）	3	20
		哺乳類（クジラ 5、鰐脚類 1、その他 2 <sup>*</sup> ）	8	
	その他動物	軟体動物（頭足類） 3、甲殻類 1、その他 4	8	
	植物		1	
復元模型	脊椎動物	爬虫類 4（長頸竜 2、モササウルス 1、カメ 1）、哺乳類 1	5	5
その他	岩石標本等		36	36
合計				358

\*：レプリカ含む（2011年3月31日現在）

### II 特別展示

#### 【特別展（第30回）】「北海道アンモナイト図鑑」：平成22(2010)年2月6日-5月30日

穂別地域周辺から採集された標本を中心に、北海道産アンモナイト 67種 136点を展示し、それぞれの特徴や生息時代について実物化石と解説シートにて紹介した。

展示協力：新ひだか町静内郷土館

地質の日（5/18）関連事業

見学者数：3,222人（当年度分）

#### 【特別展（第31回）】「白亜紀ウミガメ化石展」：平成22（2010）年7月17日-10月31日

穂別地区で化石が多数発見されている白亜紀のオサガメ類であるメソダーモケリスを中心に、カメの分類、骨格の特徴、水中生活への適応などについて紹介した。

展示協力：おたる水族館、滝川市美術自然史館、中川町エコミュージアムセンター

見学者数：5,012人

#### 【特別展（第32回）】「白亜紀巨大二枚貝 イノセラムス・ホベツエンシス展」：平成23(2011)年3月19日-5月29日

イノセラムスに関する学術的側面の解説、イノセラムス・ホベツエンシスの模式標本の公開、日本産イノセラムスの化石層序、孵化後の幼生時の浮遊生活、殻装飾形成パターン、巨大化の謎、いのせらたん（イノセラムスオリジナルキャラクター、全15種）について紹介。

展示協力：熊谷太朗（京都大学）、生形貴男（静岡大学）、田上響（福岡大学）、北海道大学総合博物館、静岡大学キャンパスミュージアム

見学者数：157人（当年度内分）



### Ⅲ 年間入館者数

(単位：人)

分類		平成18年度 (2006)	平成19年度 (2007)	平成20年度 (2008)	平成21年度 (2009)	平成22年度 (2010)
個人	一般	6,191	6,280	6,661	6,225	6,295
	学生	2,746	2,866	3,106	2,709	2,727
団体	一般	520	289	322	524	450
	学生	931	534	764	784	715
計		11,212	10,388	9,969	10,242	10,187
幼児		1,442	1,741	1,574	1,373	1,536
合計		12,654	12,129	11,543	11,615	11,723

個人：割引入館者（穂別地球体験館との共通利用割引）と無料入館者（特定入館日、減免等）を含む。

団体：10名以上 一般：高校生より上 学生：小学生～高校生 幼児：小学生未満（無料）

### 広報活動

#### 【ホッピーだより（博物館広報紙）】

A4版両面。博物館からのお知らせ、行事予定を掲載。4月号（第305号）のみ町の広報誌とともに町内全戸へ配布。5月号（第306号）からはホームページでの公開、町内の公共施設や学校等へ配布。

305号＜平成22(2010)年4月＞：「平成21年度寄贈資料／特別展開催中・アンモナイトの秘密4」

306号＜平成22(2010)年5月＞：「今年の化石体験メニュー／化石まつり春・アンモナイトの秘密5」

307号＜平成22(2010)年6月＞：「ウミガメのはなし2／アンモナイトの秘密6・学名散歩4」

308号＜平成22(2010)年7月＞：「2010夏季特別展『白亜紀ウミガメ化石展』／学名散歩5・アンモナイト立体図鑑づくりスタート」

309号＜平成22(2010)年8月＞：「ウミガメのはなし3／アンモナイトの描き方1・化石まつり夏」

310号＜平成22(2010)年9月＞：「普及講演会『最古の恐竜とカメ』・ウミガメのはなし4／アンモナイトの描き方2」

311号＜平成22(2010)年10月＞：「世界で2個体目のタカハシア・エウレカ（白亜紀アンモナイト）、10/16（土）から展示／アンモナイトの描き方3・学名散歩6」

312号＜平成22(2010)年11月＞：「白亜紀ウミガメメソダーモケリス HMG-1476（打本標本）クリーニング完了／アンモナイトの描き方4」

313号＜平成22(2010)年12月＞：「白亜紀海棲爬虫類モササウルス類の頭骨発見」

314号＜平成23(2011)年1月＞：「昨年の研究利用の紹介」

315号＜平成23(2011)年2月＞：「ウミガメのはなし5／カリフォルニア科学アカデミーでの調査研究」

316号＜平成23(2011)年3月＞：「春季特別展 白亜紀巨大二枚貝イノセラムス・ホベツエンシス展／いのせらたん型紙（1/3）」

#### 【博物館ホームページ】

行事予定を中心に、内容を随時更新している。

<http://www10.plala.or.jp/mukawa/soshiki/hakubutsukan>

#### 【新聞等掲載】

##### 【北海道新聞 苫小牧圏「とまにち博物誌」】

平成22(2010)年8月31日：「中生代のオサガメ メソダーモケリス - 進化の一端明らかに -」（27回目）

平成23(2011)年2月14日：「穂別のクビナガリュウ - 曲がらぬ首 役割は謎 -」（28回目）

##### 【苫小牧民報】

読者サービス誌「みんなのとまこまい」（37号）＜平成22(2010)年5月20日発行＞

フリーマガジン「ココット」（第1号）＜平成22(2010)年6月25日発行＞

#### 【広告等掲載】

##### 【北海道じゃらん】（リクルート北海道じゃらん）

平成22(2010)年：8月号、1月号

ウェブサイト「北海道じゃらん」(<http://www.recruit-hokkaido-jalan.jp/guide/>)に掲載

##### 【北海道 Walker】

4月号＜平成22(2010)年3月20日発行＞

##### 【フリーペーパー リアッタマガジン】

第67号＜平成22(2010)年8月発行＞

## 普及教育活動

※利用者の区分は以下の通り

幼：小学生未満、小：小学生～高校生、大：一般

### I 博物館事業（博物館の主催・共催事業）

#### 【特別展】（「展示活動」を参照）

※見学者数は、期間中の博物館入館者数と、特別展のみの見学と考えられる地域住民（穂別地区住民：会場に設置した見学者名簿から判別）の人数の合計

特別展（第30回）「北海道アンモナイト図鑑」＜平成22(2010)年2月6日-5月30日＞見学者3,222人

特別展（第31回）「白亜紀ウミガメ化石展」＜平成22(2010)年7月17日-10月31日＞見学者5,012人

特別展（第32回）「白亜紀の巨大二枚貝 イノセラムス・ホベツエンシス展」＜平成23(2011)年3月19日-5月29日＞見学者157人（当年度内分）

#### 【ミニ展示】

第1回「新着 研究成果の展示」：平成22(2010)年10月16日-平成23(2011)年4月10日

穂別産アンモナイトについて、世界で二個体目のタカハシア・エウレカと北海道から新たに産出が確認されたゴードリセラス・イズミエンゼ（どちらも寄贈資料）の紹介と、それらを用いた研究成果を紹介。

#### 【町民文化祭】

第54回穂別地区町民文化祭へ出展

「アンモナイト立体図鑑展」：平成22(2010)年10月22日-24日

化石体験コーナーとして実施した「アンモナイト立体図鑑づくり」について、完成見本のアンモナイトレプリカおよびオリジナル解説シートによって紹介した。

#### 【普及講演会】

「最古の恐竜とカメ」

講演者が2006年に行なった南米アルゼンチン・イシグアラストにおける最古の恐竜化石の調査の紹介と、最近中国で発見された初期のカメ化石、そして穂別で化石が多数発見されているウミガメ化石メソダーモケリスについて講演を行なった。

開催：平成22(2010)年8月21日 13:30-15:50（むかわ町 穂別町民センター）

講演者：平山廉（早稲田大学教授）

後援：むかわ町立穂別博物館協力会

協力：むかわ町教育委員会教育振興課

参加者：29人

#### 【化石採集会】

学芸員による展示案内の後、白亜紀の地層が露出している場所で化石を採集する。各回定員20名。事前申込・抽選で選出した。第1・3・5回は博物館学習体験用地で実施、第2・4回は沢（稲里シュッタノ沢）で実施した。

観覧料（「運営」を参照）と体験参加料（一人100円）を徴収。

参加人数計：72人

第1回＜平成22(2010)年6月19日＞（幼2・小6・大10）

第2回＜平成22(2010)年7月28日＞（小4・大5）

第3回＜平成22(2010)年8月4日＞（小8・大11）

第4回＜平成22(2010)年9月11日＞（小5・大8）

第5回＜平成22(2010)年10月2日＞（小6・大7）

#### 【化石クリーニング実習】

時間をかけて丁寧に化石をクリーニングをする。観覧料の他に体験参加料（一人100円）を徴収。定員15人とし、参加者を事前に募集した。

平成22(2010)年6月7日実施予定（申込者なしのため中止）

#### 【展示案内】

学芸員が30分ほど展示室を案内する。事前申込は不要。

平成22(2010)年7月31日 11:00-13:30（計：小4・大4）

#### 【自由研究質問コーナー】

学芸員が夏休みの自由研究の質問について対応する。事前申込は不要。特別展示室で実施。

平成22(2010)年8月7日 10:00-12:00・13:00-15:00（計：大1）

#### 【化石体験】

観覧料のみで以下のメニューを体験できる（「アンモナイト立体図鑑づくり」は有料）。

#### <実施内容>

化石クリーニング体験：ハンマーとタガネを使って、石の中から化石を取り出す。博物館入口横、かせき学習館で実施。10:00-15:00。

化石レプリカづくり：シリコン型に石こうを流し込み、アンモナイトのレプリカを作成する。かせき学習館で実施。10:00-15:00。

アンモナイト立体図鑑づくり：アンモナイトの石こう模型づくり。全15種類で、オリジナル解説シートがもらえる。有料（1個100円）で実施。平成22(2010)年7月18日から「化石体験コーナー」の化石レプリカづくりと同時開催およびアンモナイト探検隊（化石採集会）の第2回以降の参加者で希望者に対して実施した。作成個数107個。

レプリカアクセサリーづくり：自由樹脂プラスチックを用いたアクセサリーの作成。アンモナイトストラップかサンダルアクセサリーのどちらかが作成できる。かせき学習館で実施。

石割り化石さがし：学習用地で採集されたノジュールをハンマーで割り、化石を探す体験。博物館の前庭で実施。15:30-16:00。

#### <開催日数・参加者総数>

開催日数：27日間

参加者総数：974人

化石クリーニング体験参加総数：293人。

化石レプリカづくり参加総数：308人。

レプリカアクセサリーづくり参加総数：242人。

石割り化石さがし参加総数：131人。

#### <内訳>

##### (1) 化石体験コーナー

5・6・9月の隔週日曜日、7月上旬・8月下旬の毎週日曜日、7月中旬-8月中旬の毎週土・日曜日に実施。化石クリーニング体験、化石レプリカづくり、レプリカアクセサリーづくりを日替わりで実施した。

化石クリーニング体験：142人。

化石レプリカづくり：156人。

レプリカアクセサリーづくり：109人。

##### (2) 化石まつり

繁忙期に各3日間の連続日程で実施した。日中は化石クリーニング体験、化石レプリカづくり、レプリカアクセサリーづくりを日替わりで実施し、その後に石割り化石さがしを実施した。

化石まつり夏・秋には、化石レプリカづくりに合わせてアンモナイト立体図鑑づくりを実施した。

##### ①化石まつり春

平成22(2010)年5月2日-4日。

化石クリーニング体験（5/2）：68人。

化石レプリカづくり（5/3）：61人。

レプリカアクセサリーづくり（5/4）：70人。

石割り化石さがし（5/2-4）：52人。

##### ③化石まつり夏

平成22(2010)年8月6日-8日。

化石クリーニング体験（8/6）：17人。

化石レプリカづくり（8/7）：34人。

レプリカアクセサリーづくり（8/8）：48人。

石割り化石さがし（8/6-8）：63人。

##### ④化石まつり秋

平成22(2010)年9月18日-20日。

化石クリーニング体験（9/18）：6人。

化石レプリカづくり（9/19）：44人。

レプリカアクセサリーづくり（9/20）：15人。

石割り化石さがし（9/18-20）：16人。（9/20は雨天のため中止）

#### 【ワークシート等】

来館者を対象に、博物館展示室に各種シートを設置。自由参加のため、数は確認していない。

博物館探検シート：クイズ形式で、展示室の化石について学ぶ（全4枚）。景品はオリジナルシール。

化石が語る絵物語：穂別の化石を紹介する、小さな塗り絵シート（2種類）。

ミニジオラマ（クビナガリュウの海）：着色・切り抜いて、自分で作成するジオラマの型紙。穂別の化石が題材。

パズル「ホッピーくんとおともだち」：幼児向けパズル。



### Ⅲ 団体等の利用

## Ⅱ その他事業

#### 【出前授業】

平成 22(2010) 年 6 月

22 日：鶴川高校 2 年生（理科総合）＜出前授業「化石の話」＞（小 58・大 8）

平成 22(2010) 年 10 月

14 日：放課後教室（穂別地区）＜レプリカアクセサリーづくり＞（小 14）

28 日：白老町教育研究会理科研究サークル＜講話・レプリカづくり＞（大 7）

平成 22(2010) 年 11 月

18 日：放課後教室（鶴川地区）＜レプリカアクセサリーづくり＞（小 25）

#### 【運営協力等】

平成 22(2010) 年 11 月

3 日：北海道釧路東高等学校「10 青少年のための科学の祭典釧路大会」レプリカづくり協力（型作成用アンモナイトレプリカ貸出）

7 日：日高山脈館 普及事業「石の鑑定会」講師（櫻井学芸員）

#### Ⅲ - 1 町内団体等の利用

学芸員等が対応したものは〈〉で内容を示した

#### 【町内学校・教育関係団体】

平成 22(2010) 年 5 月

27 日：むかわ町教育研究会理科部会＜展示見学＞（大 6）

平成 22(2010) 年 6 月

2 日：穂別小学校 4 年生（総合学習）＜展示見学＞（小 16・大 3）

23 日：穂別小学校 4 年生（総合学習）＜化石クリーニング・レプリカづくり＞（小 16・大 3）

平成 22(2010) 年 7 月

4 日：穂別小学校 4 年生（総合学習）＜化石採集＞（小 16・大 3）

平成 22(2010) 年 8 月

26 日：むかわ町複式教育研究会＜展示見学＞（小 5・大 3）

平成 22(2010) 年 10 月

21 日：穂別高校＜出前授業「化石について」・展示見学＞（小 32・大 4）

平成 22(2010) 年 11 月

9 日：穂別小学校 2 年生（社会科）＜質問対応・展示見学＞（小 5・大 1）

10 日：平成 22 年度初任者研修 地域研修＜展示見学・講話＞（大 4）

12 日：鶴川中学校 1 年生（総合の時間）＜展示見学＞（小 62・大 5）

30 日：穂別中学校特別支援学級＜展示見学＞（小 2・大 2）

平成 23(2011) 年 2 月

3 日：仁和中学校 2 年（総合の時間）＜人文資料の見学＞（小 2・大 1）

10 日：鶴川中央小学校 3 年＜展示見学＞（小 42・大 4）

平成 23(2011) 年 3 月

10 日：鶴川中央小学校 4 年（総合学習）＜展示見学＞（小 50・大 6）

#### 【町内各種団体】

平成 22(2010) 年 4 月

8 日：中国農業研修生＜展示見学・レプリカづくり＞（大 16）

平成 23(2011) 年 3 月

21日：中国農業研修生＜展示見学＞（大16）

### Ⅲ-2 町外団体の利用

学芸員等が対応したものは◇で内容を示した

#### 【町外学校・教育関係団体】

平成22(2010)年5月

22日：恵庭市青少年研修センター＜展示見学・レ  
プリカづくり＞（小20・大7）

28日：野幌中学校（小212・大12）

平成22(2010)年6月

23日：長沼高校＜展示見学＞（小78・大5）

30日：胆振管内高校初任者研修 地域研修＜展示  
見学＞（大6）

平成22(2010)年7月

6日：日高小学校（1年）（小15・大5）

7日：厚真中央小学校＜展示見学・ワークシート  
＞（小21・大4）

28日：ひまわり子どもクラブ＜展示見学＞（小  
36・大3）

平成22(2010)年9月

2日：厚真中央小学校ほか特別支援学級＜展示見  
学＞（小11・大9）

平成22(2010)年10月

10日：NPO法人なちゅらす＜展示見学＞（小13・大4）

29日：北海道大学穂別セミナー参加者＜展示見  
学＞（大11）

平成23(2011)年1月

25日：胆振管内社会教育主事等研修会＜展示見  
学＞（大8）

平成23(2011)年2月

10日：北海道追分高校1年（小33・大3）

#### 【町外各種団体】

平成22(2010)年4月

13日：株式会社フラワーヒルズ＜展示見学＞（大  
10）

平成22(2010)年6月

6日：小樽山岳会（大11）

17日：近畿日本ツーリスト（大13）

25日：近畿日本ツーリスト（大6）

29日：近畿日本ツーリスト（大13）

平成22(2010)年7月

1日：近畿日本ツーリスト（小1・大14）

5日：近畿日本ツーリスト（幼1・大28）

16日：近畿日本ツーリスト（小3・大27）

19日：近畿日本ツーリスト（幼1・小4・大16）

23日：近畿日本ツーリスト（幼1・小2・大11）

24日：登別市柏木団地町内会（小3・大19）

26日：近畿日本ツーリスト（小3・大7）

27日：札幌市暁星第四町内会（大35）

29日：近畿日本ツーリスト（小2・大5）

平成22(2010)年8月

5日：近畿日本ツーリスト（小8・大15）

6日：近畿日本ツーリスト（小1・大9）

15日：近畿日本ツーリスト（小3・大10）

16日：近畿日本ツーリスト（小2・大10）

18日：近畿日本ツーリスト（小12・大21）

24日：近畿日本ツーリスト（小8・大24）

25日：近畿日本ツーリスト（幼2・小11・大20）

26日：近畿日本ツーリスト（小6・大13）

27日：近畿日本ツーリスト（小8・大18）

29日：近畿日本ツーリスト（小2・大8）

平成22(2010)年9月

3日：内閣府企画官ほか＜展示見学＞（大5）

平成22(2010)年11月

30日：東日本高速道路株式会社 北海道支社 千  
歳工事事務所＜展示見学＞（大3）

平成22(2010)年12月

3日：近畿日本ツーリスト事業担当者＜展示見  
学＞（大3）

平成23(2011)年1月

27日：弘前大学教授（まちづくりセミナー講師）  
ほか＜展示見学＞（大3）

平成23(2011)年2月

10日：山村留学見学者＜展示見学＞（小1・大2）

23日：職員研修会講師＜展示見学＞（大3）

## 収蔵資料概要（登録資料）

【自然史系登録資料（HMG）】（地質・化石資料） 1,553点

【自然系登録資料（HMB）】（現生動植物資料） 145点

【人文系登録資料（HMC）】（民俗・歴史資料） 3,831点

計 5,529点（2011.3.31.現在）

【町指定文化財】 HMG-1「ホベツアラキリュウ化石骨」：むかわ町指定文化財登録番号第3号

## 資料収集保存活動

### I 寄 贈

受入番号：寄贈資料／点数／寄贈者名（敬称略）

（千歳）：千歳化石会

【自然史系資料】（38件・415点）

2010-001：アンモナイト／1／大和治生

2010-002：化石含有ノジュール／23／林光重（千歳）

2010-003：アンモナイト等／19／安倍寛治（千歳）

2010-004：アンモナイト／1／服部義幸・安倍寛治（千歳）

2010-005：アンモナイト／1／服部義幸（千歳）

2010-006：アンモナイト／1／片野ともみ

2010-007：化石含有ノジュール／195／千代川謙一・服部義幸・古野竹志・今野瑠男・林光重・安倍寛治（千歳）

2010-008：脊椎動物化石／1／窪田英

2010-009：化石含有ノジュール／1／窪田英

2010-010：アンモナイト／1／玉堀翼

2010-011：アンモナイト／15／長谷川浩二

2010-012：アンモナイト／1／伊豆倉正隆

2010-013：アンモナイト／1／伊豆倉正隆・阿部利春

2010-014：化石・岩石／60／根本チヅ子

2010-015：アンモナイト／4／中下春雄

2010-016：化石含有ノジュール／1／阿部利春

2010-017：化石含有ノジュール／6／阿部利春

2010-018：カメ化石／1／二本木光利

2010-019：サメの歯化石／1／星見定徳

2010-020：カニ・カニ類の脚化石／2／中津康伸

2010-021：アンモナイト／1／梅谷一郎

2010-022：化石含有ノジュール／17／阿部利春

2010-023：化石含有ノジュール／11／阿部利春

2010-024：化石含有ノジュール／15／阿部利春

2010-025：アンモナイト等／3／柏恵一

2010-026：蛇紋岩、アンモナイト等／11／Nexco 東日本千歳工事事務所

2010-028：アンモナイトノジュール／1／長谷川浩二

2010-029：アンモナイト／1／長谷川浩二

2010-030：アンモナイト／1／長谷川浩二

2010-031：アンモナイト／1／窪田英

2010-032：アンモナイト／1／窪田英

2010-033：イノセラムスほか／4／大和治生

2010-034：植物化石／1／大和治生

2010-035：アンモナイトノジュール／1／服部義幸（千歳）

2010-036：イノセラムス／3／阿部利春

2010-037：イノセラムス／5／大和治生

2010-040：イノセラムス／1／熊谷太朗・西村智弘

2010-042：イノセラムス／1／堀田良幸

【自然系資料】（0件・0点）

【人文系資料】（0件・0点）

【その他】（1件・1点）

2010-041：デジタル一眼レフカメラ／1／西村智弘

### II 採 集

【自然史系資料】（3件・7点）

2010-018：貝化石等（5点）

2010-038：イノセラムス（1点）

2010-039：イノセラムス（1点）

【自然系資料】（0件・0点）

【人文系資料】（0件・0点）

### Ⅲ 野外調査活動

#### 【現地調査】 18回

うち、博物館協力会（協力会）と合同調査：1回  
千歳化石会（千歳）と合同調査：2回  
4月：18（千歳）、27、29（千歳）  
5月：19  
6月：3、10、25  
7月：2、9（協力会）  
9月：7、8、9、12  
10月：8、15、22、29  
11月：5

### Ⅳ 新規登録資料

登録番号：資料名／受入番号／寄贈（採集）者名（敬称略）

#### 【自然史系資料（HMG）】（化石・地質）：24点

HMG-1524：アンモナイト *Takahashia eureka* / 2010-012 / 伊豆倉正隆  
HMG-1541：アンモナイト *Gaudryceras izumense* / 2010-013 / 伊豆倉正隆・阿部利春  
HMG-1543：ヒトデ化石 / 1981-015 / 佐藤博義  
HMG-1544：カメ化石 / 2011-019 / 二本木光利  
HMG-1545：サメの歯化石 / 2010-019 / 星見定徳  
HMG-1546：*Inoceramus hobetsensis hobetsensis* / 1987-016 / 笠巻袈裟男  
HMG-1547：イノセラムス *Inoceramus* sp. / 1994-186 / 渋谷直憲  
HMG-1548：イノセラムス *Inoceramus* sp. / 2001-043 / 穂別町立博物館  
HMG-1549：イノセラムス *Inoceramus amakusensis* / 2003-046 / 穂別町立博物館  
HMG-1550：イノセラムス *Inoceramus kawashitai* / 2009-020 / 堀田良幸  
HMG-1551：イノセラムス *Inoceramus amakusensis* / 2010-036 / 阿部利春  
HMG-1552：イノセラムス *Inoceramus amakusensis* / 2010-036 / 阿部利春  
HMG-1553：イノセラムス *Inoceramus amakusensis* / 2010-036 / 阿部利春  
HMG-1554：イノセラムス *Inoceramus* sp. / 1995-021 / 穂別町立博物館  
HMG-1555：イノセラムス *Inoceramus hobetsensis hobetsensis* / 1995-059 / 地徳力・渋谷直憲・川上源

太郎

HMG-1556：イノセラムス *Inoceramus incertus* / 2010-037 / 大和治生  
HMG-1557：イノセラムス *Inoceramus balticus* / 2010-037 / 大和治生  
HMG-1558：イノセラムス *Inoceramus balticus* / 2010-037 / 大和治生  
HMG-1559：イノセラムス *Inoceramus* sp. / 2010-037 / 大和治生  
HMG-1560：イノセラムス *Inoceramus hobetsensis hobetsensis* / 2010-037 / 大和治生  
HMG-1561：イノセラムス *Inoceramus hobetsensis hobetsensis* / 2010-038 / 穂別博物館（西村智弘・下山正美）  
HMG-1562：イノセラムス *Inoceramus hobetsensis hobetsensis* / 2010-039 / 穂別博物館（西村智弘・下山正美）  
HMG-1563：イノセラムス *Inoceramus hobetsensis hobetsensis* / 2010-040 / 熊谷太朗・西村智弘  
HMG-1564：イノセラムス *Inoceramus amakusensis* / 2010-042 / 堀田良幸

#### 【自然系資料（HMB）】（現生生物）：0点

#### 【人文系資料（HMC）】（生活・歴史等）：0点

### V 資料の貸出・提供

#### 【研究】

HMG-366, 367, 1053, 1054, 1055（ウミガメ化石5点）：平山廉（早稲田大学、旧所属：帝京平成大学）＜平成6(1994)年8月17日 - 平成23(2011)年3月31日＞  
HMG-1063, 1064（ウミガメ化石2点）：平山廉（早稲田大学、旧所属：帝京平成大学）＜平成7(1995)年5月11日 - 平成23(2011)年3月31日＞  
HMG-911, 936（アンモナイト2点）：利光誠一（産総研 地質標本館、旧称：工業技術院 地質調査所地質標本館）＜平成9(1997)年6月27日 - 平成23(2011)年3月31日＞  
HMG-1443, 1444（カサガイ付きアンモナイト2点）：加瀬友喜（国立科学博物館）＜平成21(2009)年7月9日 - 平成23(2011)年3月31日＞  
HMG-134, 136（アンモナイト2点）：重田康成（国立

科学博物館) <平成 22(2010) 年 11 月 6 日 -11 月 30 日>

**【展示】**

HMG-842 (アンモナイト)・HMG-883 (イノセラムス):  
穂別地球体験館<平成 7(1995) 年 4 月 1 日 -平成 23(2011) 年 3 月 31 日>

HMB-2, 3, 4, 7, 9, 11, 12, 17, 19, 21, 22, 25, 26, 29, 30, 40, 41, 43, 98, 99 (剥製標本 20 点):  
むかわ町立穂別小学校<平成 7(1995) 年 4 月 1 日 -平成 23(2011) 年 3 月 31 日>

HMB-36, 47 (剥製標本 2 点), HMC-2797, 2798, 2799, 2821 (ジオラマ 4 点): むかわ町立穂別小学校<平成 8(1996) 年 6 月 14 日 -平成 23(2011) 年 3 月 31 日>

HMC-595 (消火用腕押上ポンプ)、HMC-864 (消火用ホース 8 点)、HMC-597・HMC-598 (消火用ホースノズル 2 点)、HMC-594 (消火用ホースカー): 田んぼ de ミュージカル実行員会<平成 22(2010) 年 12 月 21 日 -3 月 31 日>

**【出版・放送等】**

HMC-2227、HMC-2238、HMC-2239 (穂別炭鉱古写真 3 点): むかわ町郷土史研究会<平成 22(2010) 年 12 月 28 日許可>



## I 調査研究活動

### 【研究者等の来館】

平成 22(2010) 年 5 月

13 日：中島保寿（東京大学大学院博士課程）＜ウミガメ化石の観察＞

14-15 日：Aaron W. Hunter アーロン・ハンター（東京大学）＜ウミユリ化石の観察＞・富田武照（東京大学大学院博士課程）＜サメ化石の観察＞

28 日：国府田良樹（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）＜脊椎動物化石の観察＞

平成 22(2010) 年 7 月

3 日：前田晴良（京都大学理学研究科 准教授）＜収蔵資料の観察＞

平成 22(2010) 年 8 月

8 日：重田康成（国立科学博物館 研究主幹）＜アンモナイトの調査＞

20-22 日：平山廉（早稲田大学国際教養学部 教授）＜カメ化石の調査＞

25-26 日：丸山啓志（京都大学大学院修士課程）＜クジラ化石の観察＞

平成 22(2010) 年 9 月

7-10 日：田中源吾（群馬県立自然史博物館）＜ microfossil の調査＞

平成 22(2010) 年 11 月

11-15 日：佐藤たまき（東京学芸大学教育学部 准教授）・田原健太郎（東京学芸大学）＜クビナガリュウ・モササウルス化石の調査＞

平成 22(2010) 年 12 月

20-23 日：中島保寿（東京大学大学院博士課程）＜カメ化石の調査＞

## II 刊行物

### 【むかわ町立穂別博物館研究報告】

ISSN 1882-5249

第 26 号、34 頁：平成 23(2011) 年 3 月 31 日発行  
＜掲載内容＞

中島保寿・櫻井和彦・平山廉：穂別博物館の所蔵するカメ化石. p. 1-34.

## III 研究業績

Tomohiro Nishimura, Haruyoshi Maeda, Gengo Tanaka and Terufumi Ohno, 2010. Taxonomic evaluation of various morphological characters in the Late Cretaceous desmoceratine polyphyletic genus “*Damesites*” from the Yezo Group in Hokkaido and Sakhalin. *Paleontological Research* vol.14, no. 1, p. 33-55

[上記記；西村智弘（穂別博物館），前田晴良（京都大学理学研究科・准教授），田中源吾（群馬県立博物館・学芸員），大野照文（京都大学総合博物館・教授・館長），2010 年. 「蝦夷層群産（北海道～サハリン）白亜紀アンモナイト “*Damesites*（ダメシテス）” 属の分類学的評価」 *パレオントロジカル・リサーチ*（日本古生物学会，英文誌）14 巻，1 号，ページ 33-55.]

## IV 外部資金（研究助成）の取得

西村智弘（研究代表者，単独）平成 22 年度 笹川科学研究助成金 「白亜紀アンモナイト類の分布域変遷と系統進化」 63 万円

西村智弘（研究代表者，単独）平成 22 年度 日本学術振興会 科学研究費補助金（奨励研究）「北海道穂別地域の上部白亜系函淵層の層序と産出するアンモナイト」 40 万円

## V 学会・大会・研修会等への参加

### 【博物館協会等の大会・研修会等】

[北海道博物館協会]

第 49 回北海道博物館大会（札幌市）：欠席  
学芸職員部会 総会・研修会（釧路市）

平成 22 年 9 月 16-17 日：櫻井学芸員出席

[日胆地区博物館等連絡協議会]

総会（白老町）：欠席

職員研修会（新ひだか町）

平成 22 年 10 月 14 日：櫻井学芸員出席  
館長会議・拡大役員会（苫小牧市）

平成 23 年 2 月 16 日：櫻井学芸員出席（理事）

[ミュージアムマネジメント研究会]

研修会：欠席

## VI 協力団体との連携

### 【穂別博物館協力会】

学習用地水洗：6月11日

野外調査：1回（7月9日）

### 【千歳化石会】

野外調査：2回（4月18日、4月29日）

寄贈資料：5件・239点

総会：11月21日

I 行事等

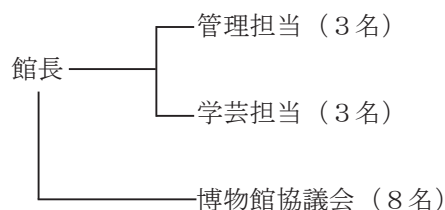
【博物館協議会】

平成 22(2010) 年 10 月 28 日：6 名出席（成立）

【中央生活館の展示】

収蔵している民族資料の展示

II 組 織



【博物館協議会委員】 <平成 22(2010) 年度>

任期：平成 22(2010) 年 4 月 1 日 - 平成 23(2011) 年 3 月 31 日

- 会 長 梅津讓一
- 副会長 佐藤稔
- 委 員 内海由紀江
- 委 員 鎌田政博
- 委 員 菊地啓允
- 委 員 小石川武美
- 委 員 高橋義道
- 委 員 只野繁

【博物館職員】 <平成 22(2010) 年度>

- <館 長> 柏恵一
- <管理担当職員>
  - 臨時職員 早瀬千佳
  - 臨時職員 多村こゆる
- <学芸担当職員>
  - 学芸員 櫻井和彦
  - 普及員（嘱託職員） 西村智弘
  - 学芸補助員（臨時職員） 下山正美

### Ⅲ 利用状況

#### 【常設展示観覧者】

平成 22(2010) 年 4 月～平成 23(2011) 年 3 月

月	一般	学生	小計	幼児	合計	開館日
4	503	144	647	110	757	26
5	1,604	971	2,575	303	2,878	26
6	412	219	631	66	697	26
7	962	432	1,394	187	1,581	31
8	1,568	891	2,459	354	2,813	31
9	527	182	709	118	827	24
10	594	239	833	261	1,094	26
11	277	146	423	57	480	23
12	58	30	88	24	112	25
1	36	12	48	6	54	21
2	62	82	144	14	158	24
3	137	99	236	36	272	26
計	6,740	3,447	10,187	1,536	11,723	308

(単位：人・日)

#### 【博物館特定入館日】

<博物館開館記念日関連事業>

7月20日の開館記念日に関連して、平成22(2010)年7月17日(土)～7月23日(金)の7日間を町民無料入館の日とした。

<国際博物館の日>

国際博物館会議(イコム、ICOM)のモスクワ大会(1977年)にて制定され、日本では平成14年度から日本博物館協会とイコム日本委員会が協力して記念事業が展開されることとなった「国際博物館の日」(5月18日)の趣旨に賛同し、当日を町民無料入館の日とした。

[博物館特定入館日に伴う町民無料入館]

一般：高校生より上、学生：小学生～高校生

実施日	行事名	一般	学生	計
10.5.18	国際博物館の日	0	0	0
7.17-23	博物館開館記念日	11	16	27
9.20	敬老の日	2	1	3
11.3	文化の日	4	1	5
11.23	勤労感謝の日	1	5	6
10.1.10	成人の日	4	0	4
計	計12日	22	23	45

(単位：人)

#### 【学校週五日制関連事業】

<町内児童生徒に対する入館料減免>

学校完全週五日制及び「総合学習」の導入に合わせて、むかわ町内児童生徒並びに引率者については無料観覧とした。

平成22年度の利用者数：179人(個人見学のみ)

### Ⅳ 歳入

区分	有料入館者数	使用料	
一般	個人	3,818	1,146
	団体	404	81
	割引	2,082	328
	パスポート	75	8
学生	個人	1,544	154
	団体	544	27
	割引	763	37
	パスポート	44	2
小計	9,274	1,783	
緒収入	物品販売代	4	
	体験学習料	22	
小計		26	
合計		1,809	

(単位：人・千円)

### Ⅴ 歳出

費目	金額
報酬	2,090
共済費	575
賃金	2,917
報償費	30
旅費	11
需用費	4,845
役務費	304
委託料	1,323
使用料及び賃借料	528
原材料費	71
負担金補助及び交付金	0
備品購入費	35
博物館費合計	12,729

(単位：千円)

## VI 利用案内

### 【開館時間】

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

### 【休館日】

- ・毎週月曜日。
  - ・国民の祝日の翌日。ただし、その翌日が土曜日および日曜日に当たるときは月曜日とし、月曜日が国民の祝日又はその翌日に当たるときは火曜日及び水曜日とする。
  - ・12月31日-1月5日。
- \*ただし、7、8月は休館日なし。

### 【観覧料】

	一般	学生
個人	300円	100円
団体	200円	50円
割引	100円	無料

一般：高校生より上

学生：小学生・中学生・高校生

幼児（未就学児童）は無料（要大人の付添い）

団体：10人以上

割引：穂別地球体験館（体験館）との共通利用割引（両施設を見学する場合の割引制度。体験館に先に入館した場合、この料金が適用される。当館を先に入館した場合は通常料金で、体験館の入館料が割引される。）

### 【減免】

「（むかわ町立）博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない（むかわ町立博物館設置条例、第4条）」が「（むかわ町）教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる（同条例、第5号）」。減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

むかわ町立博物館施行規則第4条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

（教育目的）

1) むかわ町内の小・中学校及び高等学校の児童生徒と引率者が教育を目的として入館する場合。

（研究目的）

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合。

（福祉目的）

3) 老人福祉法（昭和38年法律第133号）第15条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合。

4) 知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）第19条に規定する町内の知的障害者援護施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合。

（公益目的）

5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に館長が必要と認める場合。

## むかわ町立穂別博物館館報

第28号

平成22（2010）年度版

発行 2011年4月

発行者 むかわ町立穂別博物館

〒054-0211

北海道勇払郡むかわ町穂別80番地の6

TEL/FAX (0145) 45-3141